1 学校として目指す授業

「ベーシック、モティベーション、エンゲージメント」を基本理念におき、学習者の意欲を高めて主体的に学び、自ら学びを深める授業

2 生徒の現状

(1)「全国学力・学習状況調査」の分析(中学校3年生)

学力・学習状況調査の分析 全国、東京都の平均値を共に大きく超える値が結果として示された。問題別、学習指 | 調査結果から、多くの家庭で落ちついた環境のもと生活を送っている。(食 導要領の内容別の観点からも、ほぼ全ての分野で理解度の高さが証明された。國中モ **│**事、睡眠)学校以外でのタブレットを使用しての勉強時間数は平均値を下回っ デルを基本とした、生徒のモチベーションを高める授業づくりやエンゲージメントを 引き出すライブ感のある授業の積み重ねが一つの形として見ることができた。ただ、 様々な観点で10点以上の開きがあるなか、国語においては記述式の分野、数学にお いては短答式の分野において伸び率が低いものとなっている。今後の課題として伸ば していきたい点である。

生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査の分析

▼ているが、テレビ:スマホを利用したゲームの時間数も都、全国共に大きく下 回っている。家庭との約束も8割近くの生徒が守られている。自己肯定感も高 く、教師から認められていると感じていると9割以上の生徒が感じている。た だ、困りごと不安に関して相談できるという項目おいては6割程度の伸び率で あり、今年度から実施するハートフルウイークを課題解決の一手としたい。

(2) その他の資料を活用した分析

活用した資料名及び分析結果

年2回、生徒対象の授業評価アンケートを実施して いる。項目は、生徒自身の授業に対するもの、教員 の授業について等、9つの質問をformsを利用して 行い、研修会、教科部会を通じて授業改善の方策を 考察している。

3 生徒の学力・学習状況等の課題

学習に対しての考え方や学習にかける時間等から、生徒の学習に対する意識の高さを伺うことができる。また、教科ごとの学力面 に関する調査からも全国・東京都の基準を超えている。ただし、見通しをもち、計画的に学習を進めるための、学習方法への工夫 |に関して、困難を感じる生徒が多くみられた。また、自分の考えや思いを積極的に伝えることに、苦手意識を持っている生徒が過 半数を超えていた。このことからも、生徒たちに自ら工夫のできる学習方法を提供し、積極的に自分の思いや考えを伝えあう力を 授業の中で構築していく必要がある。

4 学校全体の授業改善の視点

授業改善への指導法(ESDに特化した「國中モデル」)として、「ベーシック=基礎基本の定着」「モティベーション=興味・意欲を高める工夫」「エンゲージメント=学びの中か ら、生徒自身が熱中・没頭状態へ導く工夫」の3点を授業へ取り入れる。具体的な授業改善の視点として、A 既習や本時の授業から発想を広げさせ、生徒の思考(発言・活動)に柔軟 に対応できる授業展開、B 2回以上の山場(感嘆詞がでる)を意図的に計画し、活動や発見、驚きのある授業展開、C 学習内容と社会事象や身近な生活、他教科等、広い分野に関連 していることを気づける授業展開、D 生徒間のコミュニケーションを引き出し、個性を生かし主体的に集団で学びを深めていく授業展開 の 4 点を重視する。

【授業改善推進プランの活用法】

- ①「1 学校として目指す授業」を設定する。 ※学校経営方針との関連を確認すること。
- ②「1 学校として目指す授業」に関する各種調査の特徴的な課題を「2 生徒 の現状」に、まとめる。
- ③「2 生徒の現状」を基に、学校全体の課題を焦点化して、「3 生徒の学 力・学習状況等の課題 にまとめる。
- ④ 「3 生徒の学力・学習状況等の課題」を基に、「4 学校全体の授業改善の 視点 トを設定する。
- ⑤「4 学校全体の授業改善の視点」を基に、「5 各教科における授業改善の 方策」を設定する。 → 学校指導課へ提出する。
- ⑥12月末に実施状況を評価し、3学期以降の指導に生かす。 評価 ◎…実施した。 ○…一部実施した。 △…未実施

5 各教科における授業改善の方策

	国語	評価	社会	評価	数学	評価	理科	評価	音楽	評価	美術	評価	保健体育	評価	技術・家庭	評価	外国語	評価	道徳	評価
1 学年	基礎学習の定着をはかる ために繰り返し学習を授業の はじめの部分に取り入れて定 着する。活動的な学習形態を 取り入れ、互いに学び合う環 境を作る。自らに類り見つ け、課題解決に取り組むこと ができる授業構成をはかる。		生徒の理解度を丁寧に把握して、授業を展開する必要性がある。 学習に対する姿勢はあるが定着するまでの過程を授業内でも示していきたい。 学習班での作業やワークをさらに取り入れエンゲージメントを高める。		具体的事象から抽象的・概念 的な事象・移りやすくするため に、ICTを用いて視覚的効果 を高め、理解を促進する。ま た、一斉授業だけに留まらない 授業方法をとる。個人による活動では個別最適化を図り、個人 で得たものをグループで共有で きる仕組みを取り入れること で、基礎力の定着を図る。		ここから3年間で育てたい能力を明確にし、1年生の頃から根気強く育てていく必要がある。 ゲラフ作成や計算の取り組みを 練り返し行うことで定着をはか る。日常と理科の関連を授業で 多く取り扱ったり、学習内容を 生活に活かしたりすることで、 内容への興味を引き知識を定着 させていく。		音楽活動を選して生居音楽を受好 する気持ちを育むきっかけを与える 授業を目標としており、表現活動に おける基礎的・基本的な技能の定着 や鑑賞活動を深めるための基本的な 知識の定着を図るためにスライドを 用いた解説を行っている。また時間 徒徒がお互いに意見を共有する機会も 作っていく。		導入やワークシートでねらい と評価基準を明確に示す。 発達段階に応じ、造形的な見 方・考え方と日常生活がリンク する題材設定を行う。 主体的に取り組むことがより 良い作品につながる実感がもて る題材を設定を行う。		運動・の苦手暴減を最外限にするために、保健分野における健康な生活についての学習内容と関連させたり、導入ではコオーディネーショントレーニングなどを取り入れた動きづくりを効果的に行う。一人一人が明確に自身の課題を形態し、学習への目標を掲げさせ、そのために必要ななり組みについて指導している。また、単元のまとめでは、フィードバックを行う。技能の向上とともに、知識や思考力を高めていくため、学習・ドウ内容を見直し、今まで以上に授業内で活用する。		ものづくりによって問題解決 をするための方法や手段につい て班で検討や検証をする場面を 設定する。個人の制作過程に生 かす。 身近な生活と関連付けた学習 課題を設定し興味関心を引き出 す。 発達に応じた課題を設定し、 自信をもって課題解決に取り組 めるようにする。		デジタル教科書を効果的に活用し、視覚的な理解や音声面からの生徒への支援を充実させる。 会話活動等、生徒が実際に英語を用いる機会を充実させ、言語活動の充実を図る。 英語の歌や補助映像等を活用して、生徒の興味や関心を広げ深めるきっかけを授業に取り入れる。		道徳の授業だけでなく、 行事等を活用し、自己を見 つめる機会を作る。物事を 広い視野から多面的・多角 的に考えることができる発 間を行う。日常生活に置き 換えて考えさせ、実践意欲 を高める。	
	基礎的な知識を増やすために、ICT等を活用して反復学習を行い定着を目指す。相手により理解してもらうための表現力が身につくグループ活動や書く課題を設定する。それにより、考える力を高める。		エンゲージメントを高め、 授業内容の理解度を深める手 法として、主体的に取り組む ことができる教材の使用を促 進する。また、言語活動にお ける意見共有などを通じて、 多面的な意見を取り入れ、自 らの学習に生かすように促 す。		習熟度別少人数授業を通 して個々人の能力を把握 し、個に応じた指導を行 う。 基礎的・基本的な知識・ 技能を習得できるよう、課 題の難易度を細かく設定 し、適宜教えあい活動を取 り入れる。		これまでの学習や日常生活とのつながりを意識しながら 学習を進め、理科への興味関 心や既習事項に関するさらな る知識の定着に努める必要が ある。またグラフ作成や計算 の取り組みを繰り返し行い、 どの数値が何を表しているの かを地道に定着させる。		音楽活動を通して生涯音楽を愛す する気持ちを育むきっかけを与える 授業を目標としており、表現活動に 授業を目標としており、表現活動に を図るため、パート練習を通して 個々の歌保に努める。また、生徒が割 図 正に意見を共有する時間 彦峰保 し、自分の考えを深める機会も作っ ていく。		導入やワークシートでねらい と評価基準を明確に示す。 発達段階に応じ、適形的な見 方・考え方と日常生活がリンク する題材設定を行う。 主体的に取り組むことがより 良い作品につながる実感がもて る題材を設定を行う。		集団活動の中で、個別最適な 学びに向けて個々の課題や困り ごとを明確にし、指導を行う。 技能の修得するとともに、運 助に対する知識や思考力、判断 力が身に付くような工夫を授業 内で取り入れる。 生徒が活動の中で意見を発表 する場の設定やグループで学習 する機会を増加させる。		ものづくりによって同題解決 をするための方法や手段につい で班で検討や検証をする場面を 設定する。個人の制作過程に生 かす。 身近な生活と関連付けた学習 課題を設定し興味関心を引き出 す。 発達に応じた課題を設定し、 信をもって課題解決に取り組 めるようにする。		デジタル教科書を効果的に活用し、視覚的な理解や音声面からの生徒への支援を充実させる。 会話活動等、生徒が実際に英語を用いる機会を充実させ、言語活動の充実を図る。 英語の歌や補助映像等を活用して、生徒の興味や関心を広げ 歌めるきっかけを授業に取り入れる。		行事等も活用し、自己を見 つめる機会を作る。 物事を広い視野から多面 的・多角的に考えることがで きる発問を行う。 日常生活を通じて道徳的価 値を理解させる場面を増やし ていく。	<u>.</u>
3 学年	ICT教材等を活用し、 生徒自身が興味関心をもち、 学びが活きることを実感できるような授業展開を模索する。 論理的に考え、その考えを 説得力のある形で表現する力 を身に付けられるような授業 を展開する。		今現在の世界の状況と連動させていく。 ある用語とほかの用語との 関連性を図る。 一つの視点だけでなく、複 数の視点を提示し、あっと 思わせるようなエピソード を加える。		習熟度別少人数授業の利 点を生かし、基礎の徹底、 複数の課題を設定するなど 個に応じた指導を行う。 課題解決の時間を設定 し、グループで考えを伝え 合う活動、全体での発表活 動などを取り入れる。		生徒が没頭できるような 活動となるような課題の設 定を工夫する。ICTを活用 した話し合い活動などの協 働的な活動を取り入れ、モ チベーションを保てるよう にする。基礎基本の習得に これらの学習を連動されて いく。		音楽活動を通して生涯音楽を愛好す る気持ちを育むきっかけを与える授業 を目標としており、3番間で身につけて きた豊かな歌唱表現につながる基礎的 な技態の定着をさらに図るため、パート 株割を充実化させるとともに、楽譜 に書かれている行曲者の思いを読み取り、表表に反映させていてことができ るような授業実際を心掛ける。また、 生徒かお互いに意見を共有する時間を 確保し、自分の考えを深める機会も 作っていく。		導入やワークシートでねらい と評価基準を明確に示す。 発達段階に応じ、造形的な見 方・考え方と日常生活がリンク する題材設定を行う。 主体的に取り組むことがより 良い作品につながる実態がもて る題材を設定を行う。		個別最適な学びに向け、生徒 個々の発達段階や課題に応じた 指導を行う。また、生徒自身が 学び方や学習内容を選択し、主 体的な学びとなる工夫を凝ら す。毎回授業の始めにテーマと を流れを示し見通しを持たせる とともに、中盤では対話形式の 思考型の取り組みも行う。		ものづくりによって問題解決 をするための方法や手段につい て班で検討や検証をする場面を 設定する。個人の制作過程に生 かす。 身近な生活と関連付けた学習 課題を設定し興味関心を引き出 す。 発達に応じた課題を設定し、 信をもって課題解決に取り組 めるようにする。		デジタル教科書を効果的に活 用し、視覚・音声面からの 支援 を充実させる。 生徒が実際に英語を用いる言 調活動の充実を図る。 補助映像等を活用して、生徒 の興味や関心を広げ深めるきっ かけを授業に取り入れる。		生徒の発達段階・実態に 合わせた教材を使用し、行 事や他教科での活動と関連 させた内容を行う。 生徒一人一人が主体的に 考え、対話を通して多様な 考えを共有する活動を増や していく。	[F m1]